

# 地域連携センター一年報

第6号（平成24年度）

愛知県立大学

## 見える地域連携へ

地域連携センター長 戸田尚宏

教員と学生の地域への働きかけによる、大学と地域相互の活性化と発展が、大学の機能を見る新たな視点として捉えられ、これに対応するため、本学の地域連携センターは平成 19 年に発足した。以来、6 年が経過し、この間、公開講座や学術講演会などの充実が図られてきたが、そうした中で地域連携センターの業務として、大学が提供し得る機能を地域に対して「見える」ようにすることの重要性が認識されてきた。

本年度は、こうした認識に立って、まず教員が自主的に行なっている地域に対する諸活動を把握する事に努めた。これには、「自己点検自己評価報告書」に各教員が記述している内容から集計させて頂いた。その結果を元に、「地域貢献マップ（数字で見るシンボリックな地域貢献）」（見開き 8 ページ）と題したパンフレットを作成し配布させていただいた。

加藤史郎元地域連携センター長はかつて「市場的需要」に振り回されず「愛知堅実大学」を目指すべきであると方向性を打ちだされた。その際、批判の槍玉に上げていたのは、「地域貢献大学ランキング」であった。加藤先生が好ましく思われなかった、このランキングであるが、本年度に関しては上記のパンフレット作成の仕事のおかげで、把握している学内の状況を正確にアンケートに記載できた。そうしたところ、全国 532 大学中、昨年度 168 位であったランキングが、81 位となった（公立大学では 67 大学中 26 位から 14 位へ）。もちろんランキングを上げることが目標ではないが、「見える」方向へ近づいたと考える。

また、長久手市との包括協定締結、陶磁資料館との共催事業と協定締結など、地域の他団体との見える連携のスタートの年でもあった。これらの協定が結ばれることによって、内外の意識が明確になり、より新たな連携が生まれる効果を持つものと期待される。特に、陶磁資料館での「戦国あいち展」ではコスプレが得意な大村知事の参加もあり、本学の持つ歴史文化研究のポテンシャルをアピールできたと考える。

一方、本年度は大学の第二期中期計画を練る年でもあり、学長から伝えられる県側からの要請には、常に「地域貢献が第一義」とある。ここまで念押しするその裏には、これまで設置者である県自体に対して「見える化」を怠って来たのではないかという反省点が明確になってきた。

こうした点から考えると、地域連携センターの役割として、今後の指針がある程度明確になったと考えられる。即ち、全学の枠で、各教員、学生の地域への働きかけの活動を分類整理した上で、遅滞無く、判り易く内外から見える形にすることである。これが徹底されるならば、自ずと更なる連携のアイデアが生まれ、必要な仕組みの創出も行なわれるようになるであろう。すなわち、現状を見えるようにする事で、新たなイノベーション

を起こさせるサイクルが回るようになるのである。ダイエットには、体重計に乗り自身の現状を見るだけで、特別なことをしなくても大きな効果がある。それと似ている。

さて、本年度の活動の内、ここに記して置きたい新たな試みとしては、共催事業等のメニュー化が上げられる。これまで、はっきりしなかった共催や協力といった概念が明確になった事から、教員の催事に関する意識も活性化に向かうと考えられる。これも、見える化の一環であろうと考える。

また、これまでの「研究会」を「セミナー」として位置付け、同時に政策提言などの重要な役割に関して、各研究所長の集いを始めて開催し、検討を行なった。また懸案であった、公開講座の学内講師へのインセンティブに関しては、準備費用の補助の仕組みを設けた。

看護実践センターにおいては各種フォローアップセミナーや、子育て支援（もりっこやまっこ）が大きな成果を上げており、学外からの評価が高いが、学内への認知（見える）度も上げる努力をしてきた。

また、学生のボランティア活動に関しては、震災ボランティアに関わった学生の活動が活発になり、いくつかのボランティア団体が発足した。本年度はそれらの活動を「ボランティア促進プロジェクト」として概観する機会が学生達の手によって企画され実施された。これに関しては、非常に充実しているため、本報告に含めるのではなく、別冊子として震災復興支援委員会が主催してまとめ、「見える」形となったのでそちらを参照されたい。

一端、「見える」事への徹底を図ろうと意識し始めると、それだけで多くの課題が見えてくる。今後、情報集約や発信など「見える」ために必要な仕組み（WEBやSNSなどのネットワークの利用も含む）を作るに際して、現状の認識と評価、問題点の抽出とその改善に向けた計画と実施、さらにその評価という一連のサイクルに乗せて行かなくてはならない。

来年度に向けて現在進行中の大きな事案としては、「大学COC(Center of Community)事業」への申請に向けた応募準備である。そこでは、これまで各教員や学生が個人的に行なって来た活動を大学全体の組織活動へと発展させ、持続していく仕組みを作っていく事が要請されている。これには全学の教員、学生、事務が覚悟し、一丸となって当たらねばならない。その責務の大きさに、私自身、ようやく地域連携・社会貢献というものが何なのか認識が生まれて来た所である。

このような素人のセンター長を常に支えて下さっている、研究支援・地域連携課の皆さんには、最大級の感謝とともに、今後もさらなるお力添えをお願いする次第である。

## 報告書目次

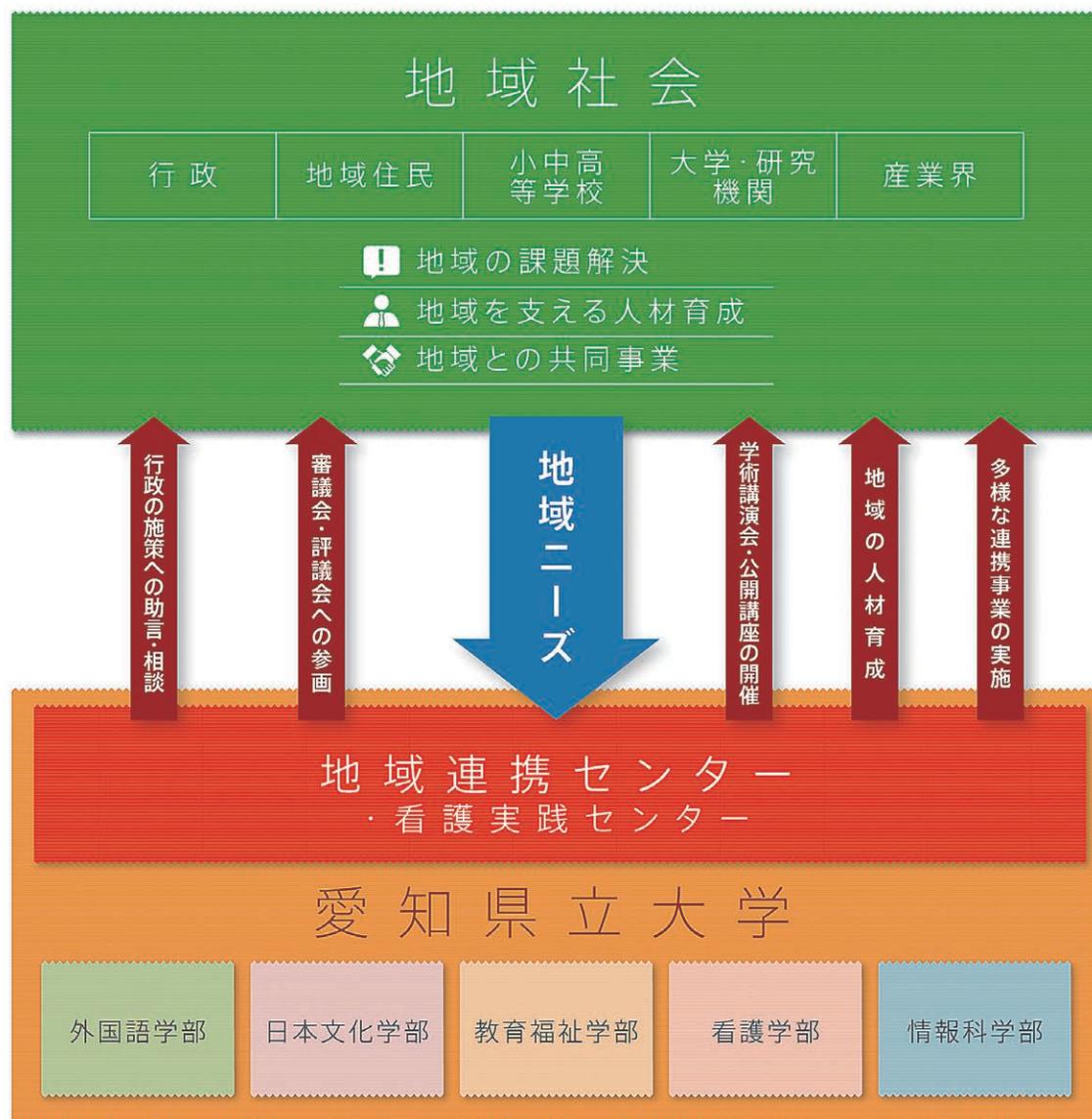
1 組織と運営 .....	1
2 地域連携センター・産学連携推進室 看護実践センター・公開講座企画運営委員会 .....	2
3 地域連携センター活動状況 .....	10
4 活動実績 .....	13
【センターが窓口となった講師派遣等】	
【地域の課題解決を目指す】	
(1) 子育て支援事業「もりっこやまっこ」の開催 .....	15
(2) 学生のボランティア活動への支援 .....	16
【地域を支える人材の育成】	
(1) 学術講演会 .....	19
(2) 公開講座 .....	21
(3) OB 教員による講座「県大アゲイン」 .....	23
(4) セミナー .....	25
(5) 知の探究講座 .....	40
(6) あいち地域づくり連携大学 .....	44
(7) 愛知県地域づくり研修交流会 .....	45
(8) 看護職教育・研究支援事業：各種セミナー .....	46
【地域の多様な団体との連携】	
(1) 長久手市との包括連携協定 .....	47
(2) 愛知県陶磁資料館との包括協定 .....	48
(3) 産業界との連携事業 .....	49
5 他大学調査 .....	57
6 参考資料 .....	59



## 1. 組織と運営

### 地域連携センター紹介

○地域連携活動を推進する愛知県立大学の総合的な窓口として次のような業務を行っています。



## 2. 地域連携センター・産学連携推進室 看護実践センター・公開講座企画運営委員会

### 愛知県立大学地域連携センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知県立大学学則第6条の規定に基づき設置される地域連携センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本的事項について定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、地域連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

(支部)

第3条 センターの支部として、守山キャンパスに看護実践センターを置く。

(業務)

第4条 センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 行政との連携に関すること。
  - (2) 他大学・研究機関等との連携に関すること。
  - (3) 産業界との連携に関すること。
  - (4) 小・中・高等学校との連携に関すること。
  - (5) NPO等各種団体との連携に関すること。
  - (6) 学術講演会、公開講座の企画・立案・実施に関すること。
  - (7) 学術文化交流センターの管理・運営に関すること。
  - (8) その他センター長が適当と認めた業務
- 2 前項以外の業務に関する看護実践センターの運営に関しては、別に定める。

(センター長)

第5条 センターに、センター長を置く。

- 2 センター長は、学長の命を受け、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は、2年とする。ただし、任期の途中でセンター長が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 センター長に事故がある場合は、センター長が予め指名したセンター長補佐がセンター長の職務を代理する。

(看護実践センター長)

第6条 看護実践センターに、看護実践センター長を置く。

- 2 看護実践センター長は、センター長の命を受け、センターの業務を補佐する。
- 3 看護実践センター長の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で看護実践センター長が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長補佐)

第7条 センターに、センター長補佐を置く。

- 2 センター長補佐は、センター長及び看護実践センター長の所属学部以外の学部から各1名を、

学長がセンター長と協議の上指名する。

- 3 学長は、センターの運営に必要と判断した場合、センター長と協議の上、センター長及び看護実践センター長の所属学部からセンター長補佐を指名することができる。
- 4 センター長補佐は、センター長の命を受け、センター長の職務を補佐する。
- 5 センター長補佐の任期は、1年とする。ただし、任期の途中でセンター長補佐が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議)

第8条 センターの業務を円滑に運営するため、センター運営会議を置く。

2 センター運営会議は次の者をもって組織し、議長はセンター長をもって充てる。

- (1) センター長
- (2) 看護実践センター長
- (3) センター長補佐
- (4) 学術情報部長

3 運営会議はセンター長が召集する。

(委員会)

第9条 第4条第6号の業務に係る重要な事項について審議するため、公開講座企画運営委員会を置く。

2 前項の委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(産学連携推進室)

第10条 第4条第3号の規定による業務を推進するため、産学連携推進室（以下「推進室」という。）を置く。

2 前項の推進室に関して必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第11条 センターの庶務は、研究支援・地域連携課で行う。

(補則)

第12条 この規程に定めるセンターの運営に関し必要な事項は、学長が定める。

## 附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

### 地域連携センター運営会議名簿

所 属	平成24年度運営会議氏名
議長（地域連携センター長）	戸 田 尚 宏
看護実践センター長	小 松 万喜子
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐	藤 田 博 仁
学術情報部長	春日井 隆 司

### 地域連携センター庶務

所 属	氏 名
研究支援・地域連携課係長	ロベル 智 子
研究支援・地域連携課主事	大 田 なぎ砂
研究支援・地域連携課	林 勇 吾

## 愛知県立大学産学連携推進室要綱

### (趣旨)

第1 この要綱は、愛知県立大学地域連携センター規程第10条第2項に基づき、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する産学連携推進室（以下「推進室」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2 推進室は、産学連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

### (業務)

第3 推進室は、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産学連携を推進する事業の企画・実施及び広報
- (2) 共同研究等の窓口業務
- (3) 知的財産に関する支援業務
- (4) その他室長が必要と認める業務

### (組織)

第4 推進室は、次の者をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 地域連携センター長
- (3) 地域連携センター長補佐
- (4) 情報科学部選出教員
- (5) 室長が指名する事務職員
- (6) その他室長が必要と認めた者

2 室長は、地域連携センター長が前項第2号から第4号に掲げる者の中から指名する。

### (顧問)

第5 推進室に、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、産学連携に高い見識を有する学外者の中から地域連携センター長が委嘱する。
- 3 顧問は、推進室の活動に対して助言を行うとともに、学外の機関等との渉外にあたる。
- 4 顧問の任期は、1年とし、再任を妨げない。

### (庶務)

第6 推進室の庶務は、庶務課の協力を得て研究支援・地域連携課が担当する。

### 附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

### 産学連携推進室運営会議名簿

所 属	平成24年度運営会議氏名
室長（情報科学部選出）	小 栗 宏 次
地域連携センター長	戸 田 尚 宏
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐	藤 田 博 仁
看護実践センター長	小 松 万喜子
事務職員（学術情報部長）	春日井 隆 司
事務職員（研究支援・地域連携課係長）	ロベル 智 子
事務職員（研究支援・地域連携課主事）	大 田 なぎ砂
事務職員（研究支援・地域連携課）	林 勇 吾

## 愛知県立大学看護実践センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知県立大学地域連携センター（以下「地域連携センター」という。）規程に定めるもののほか、愛知県立大学看護実践センター（以下「実践センター」という。）の運営に関する基本的事項について定めるものとする。

(目的)

第2条 実践センターは、看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、この地域における看護実践水準の向上を図るとともに、看護を通じた地域連携・地域貢献を推進することを目的とする。

(業務)

第3条 実践センターは、その目的を達成するために、地域連携センター規程第4条に定めるもののほか、次に掲げる業務を行う。

- (1) 認定看護師教育課程に関すること
- (2) 看護職を対象とした教育、研究指導及び情報発信に関すること
- (3) その他看護実践センター長が適当と認めた業務

(看護実践センター長)

第4条 第3条各号に定める業務については、看護学部長の命を受け、実践センター長が掌理する。  
(看護実践センター長補佐)

第6条 実践センターに、実践センター長補佐を置くことができる。

- 2 実践センター長補佐は、看護学部から2名以内を、看護学部長が実践センター長と協議の上指名する。
- 3 実践センター長補佐は、実践センター長の命を受け、実践センター長の職務を補佐する。
- 4 実践センター長補佐の任期は1年とする。ただし、任期の途中で実践センター長補佐が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会)

第7条 第3条に掲げる業務に係る重要な事項について審議するため、次の委員会を置く。

- (1) 認定看護師教育課程教員会
  - (2) 認定看護師教育課程入試委員会
  - (3) 看護職教育・研究支援委員会
- 2 前項の委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8条 実践センターの事務は、守山キャンパス部学務課で行う。

(補則)

第9条 この規程に定めるほか、実践センターの運営に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

## 愛知県立大学公開講座企画運営委員会規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する公開講座企画運営委員会（以下「委員会」という。）について、地域連携センター規程第8条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 公開講座の企画・立案・実施に関すること
- (2) 学術講演会の企画・立案・実施に関すること
- (3) その他公開講座及び学術講演会に関すること

(組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 地域連携センター長
- (2) 看護実践センター長
- (3) 地域連携センター長補佐
- (4) 各学部及び各大学院研究科から選出された者（学部・研究科の双方を兼ねる。）各1名
- (5) 地域連携センター長が指名する事務職員

2 委員会に、委員長を置き、地域連携センター長をもって充てる。

3 委員の任期は、1年とする。

(会議及び運営)

第4条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

3 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数の同意をもって決することとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を認めることができる。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、研究支援・地域連携課が担当する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

公開講座企画運営委員会委員名簿

所 属	平成24年度委員氏名
委員長（地域連携センター長）	戸 田 尚 宏
看護実践センター長	小 松 万喜子
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐	藤 田 博 仁
外国語学部選出	竹 中 克 行
日本文化学部選出	伊 藤 伸 江
教育福祉学部選出	田 中 良 三
看護学部選出	古 田 加代子
情報科学部選出	金 森 康 和
事務職員	ロベル 智 子
事務職員	大 田 なぎ砂
事務職員	林 勇 吾

### 3. 地域連携センター活動状況

日時		運営会議・委員会等	行事・活動
4月	11日	第1回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	20日		愛知県地域政策課との定例会議
	25日	第1回公開講座企画運営委員会	
5月	9日	第2回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	10日		長久手市との包括連携協定調印式
	22日		清水展氏学術講演会
	28日		愛知県地域政策課との定例会議
6月	13日	第3回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	20日		セミナー「文化の記録と映像表現―民族誌映画の目指すもの―」(協力)
	26日		セミナー「東日本大震災のその時、支援活動のこれから―私たちにできること―」(共催)
7月	1日		愛知県陶磁資料館との協定締結
	8日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第1回)
	10日		長久手市との定例打合せ
	11日	第4回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	セミナー「浦島太郎とルーマニアの不老不死」(共催)
	15日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第2回)
	22日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第3回)
	26日		名古屋市立大学との情報交換会
	27日		セミナー「世界遺産を掘る：メキシコ考古学の魅力と伝統文化」(協力)
	29日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第4回)

8月	1日	第2回公開講座企画運営委員会	
	5日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第5回)
	16日 ～17日		「知の探究講座」(前期)
	20日 ～21日		「知の探究講座」(前期)
	26日		セミナー「あいち学セミナー 大航海時代の戦国あいち」(主催)
	31日		名古屋市立大学との情報交換会
9月	8日		セミナー「説話伝承学会例会」(後援)
	12日	第5回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	29日		「知の探究講座」(後期)
10月	10日	第6回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	15日		セミナー「JICA ボランティアセミナー」(協力)
	16日 ～17日		フロンティア21エレクトロニクスショー出展
	17日	研究所長会議	
	20日		「知の探究講座」(後期)
	22日 ～23日		セミナー「フォーラム「モンゴルの多面性とその現在」」(協力)
	26日		脇田晴子氏学術講演会
	27日		「知の探究講座」(後期)
	31日		「あいち地域づくり連携大学」(第1回)
11月	5日		「知の探究講座」(後期)
	6日		セミナー「介護・医療・生活支援向けパートナーロボットの開発」(協力)
	7日	第7回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	10日		公開講座(第1回)、「知の探究講座」(後期)
	14日		「あいち地域づくり連携大学」(第2回)
	16日 ～18日		クルマ未来博2012・あいち次世代ロボットフェスタ
	24日		公開講座(第2回)
	28日		「あいち地域づくり連携大学」(第3回)

12月	4日		セミナー「フィクションの言語一人称体系を中心に」(協力)
	8日		公開講座(第3回)、「知の探究講座」講座別発表会
	12日	第8回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	12日 ～14日		ITSシンポジウム
	14日		「あいち地域づくり連携大学」(第4回)
	15日		公開講座(第4回)
	17日		セミナー「音のない3. 11」(協力)
	19日		ボランティア促進プロジェクト
	20日	長久手市大学連携推進協議会	長久手市長と学生が語る会～起業のすすめ～
	24日		セミナー「ろう者の文化 聴者の文化」(協力)
1月	7日 ～9日		セミナー「Satellite Workshop On IDAQP in APU White noise, Quantum Information and Statistics」(共催)
	12日		「知の探究講座」全体発表会、NEXT COMMUNICATION AWARD 2012
	16日	第9回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	22日		セミナー「ルーマニア・トランシルヴァニア地方の民族芸能：公演と解説」(協力)
2月	4日 ～6日		セミナー「はじめてのインドネシア語講座」(共催)
	8日		「愛知県地域づくり研修交流会」
	11日 ～12日		セミナー「はじめてのインドネシア語講座」(共催)
	14日	第10回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
3月	1日	第3回公開講座企画運営委員会	
	4日 ～8日		瀬戸商工会議所パソコン講習会
	7日	第11回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	

## 4. 活動実績

### 【センターが窓口となった講師派遣等】

#### ○春日井市

春日井市生涯学習課からの依頼により、「かすがい熟年大学」へ講師の派遣を行った。

山村亜希准教授（日本文化学部歴史文化学科）

「地図から見る歴史」（7月31日、8月7日）

大塚英二教授（日本文化学部歴史文化学科）

「大航海時代の尾張国」（7月17日）

#### ○長久手市

長久手市教育委員会生涯学習課からの依頼により、「愛知県立大学連携講座（公民館講座）」へ講師の派遣を行った。（24年12月2日、9日）

山村亜希准教授（日本文化学部歴史文化学科）

「戦国の城・町から江戸の城下町へ～地理からよむ尾張の城と町」

#### ○朝日カルチャーセンター

愛知県立大学では、大学での教育研究の成果を県民や社会に対して還元するとともに、高度な要望や知的欲求など県民の多様なニーズに対応するため、朝日カルチャーセンターと提携講座を開催している。

〈平成24年度提携講座〉

#### 4月～6月

久富木原玲教授（日本文化学部国語国文学科） 「源氏物語の謎」

伊藤伸江教授（日本文化学部国語国文学科） 「兼好法師のつれづれなる生活」

伊里松俊教授（外国語学部英米学科） 「アイルランド短編小説の魅力」

遠山一郎名誉教授ほか 「『古事記（ふることみ）』が記した言霊の旅」

日置雅子名誉教授 「ドイツ宗教改革とその時代③」

山井徳行非常勤講師 「情念 その蜜と棘—アランの幸福論に学ぶ」

大脇由紀子非常勤講師 「『古事記』入門」

#### 7月～9月

久富木原玲教授（日本文化学部国語国文学科） 「源氏物語の謎」

伊藤伸江教授（日本文化学部国語国文学科） 「兼好法師のつれづれなる生活」

伊里松俊教授（外国語学部英米学科） 「アイルランド短編小説の魅力」

遠山一郎名誉教授ほか 「『古事記（ふることみ）』が記した言霊の旅」

山井徳行非常勤講師 「情念 その蜜と棘—アランの幸福論に学ぶ」

大脇由紀子非常勤講師 「『古事記』入門」

## 10月～12月

久富木原玲教授(日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊藤伸江教授(日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活」
伊里松俊教授(外国語学部英米学科)	「アイルランド短編小説の魅力」
遠山一郎名誉教授ほか	「『古事記(ふることみ)』が記した言霊の旅」
日置雅子名誉教授	「ドイツ宗教改革とその時代④諸侯による宗教改革—アウグスブルグの宗教和議」
山井徳行非常勤講師	「続・アランの「幸福論」を読む —「情念」とは何か」
大脇由紀子非常勤講師	「『古事記』入門」

## 2013年1月～3月

久富木原玲教授(日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊藤伸江教授(日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活」
伊里松俊教授(外国語学部英米学科)	「アイルランド短編小説の魅力」
林良児教授(外国語学部)	「ヨーロッパ 美の歴史 —①古代から15世紀前半までの絵画」
大脇由紀子非常勤講師	「『古事記』入門」

## ○その他地域連携コーディネート及び地域連携事業

- ・あいち海上の森センター（人と自然の共生国際フォーラムへの協力）
- ・愛知県教育委員会（高大連携事業）
- ・愛知県生涯学習推進センター（共催事業検討）
- ・愛知県地域政策課地域整備グループ  
（地域活動の企画募集周知、リニモ沿線地域づくり会議への協力）
- ・愛知県陶磁資料館（包括連携協定締結、パートナーシップ事業）
- ・岩手県立大学（学生ボランティア派遣）
- ・科学技術交流財団（知の拠点への事業協力）
- ・JICA（研究会の呼びかけ）
- ・長久手市  
（「長久手ウォッチング」の共同事業、長久手市と「愛知・長久手学」の共催事業（3回）  
「市長と学生が語る会」の共催事業、「長久手市秘書インターンシップ」の募集周知）
- ・名古屋市生涯学習センター（共催事業検討）
- ・名古屋市立大学（中期計画、公開講座等に関する情報交換）
- ・みよし市（共催事業検討）
- ・ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会（パートナーシップ事業申請）

【地域の課題解決を目指す】

(1) 子育て支援事業「もりっこやまっこ」の開催

H24年度 看護実践センター もりっこやまっこ事業

		新規参加者(組)数	再来参加者(組)数	合計	内容
1	5月10日	11	13	24	自由ひろば
2	5月24日	17	33	50	自由ひろば・もりっこやまっこサロン(院生企画)
3	5月31日	15	56	71	自由ひろば・もりっこやまっこサロン(院生企画)
4	6月14日	25	45	70	自由ひろば・もりっこやまっこサロン(院生企画)
5	6月21日	15	61	76	自由ひろば
6	7月5日	17	69	86	自由ひろば・もりっこやまっこサロン(ベビーサイン体験教室)
7	7月12日	8	54	62	自由ひろば
8	7月26日	11	57	68	自由ひろば
9	9月20日	32	75	107	自由ひろば
10	10月18日	19	65	84	自由ひろば
11	11月15日	14	50	64	自由ひろば・もりっこやまっこサロン(ベビーサイン体験教室)
12	12月20日	3	35	38	自由ひろば
13	1月17日	9	48	57	自由ひろば
14	2月21日	8	37	45	自由ひろば
	計	204		902	

## (2) 学生のボランティア活動への支援

### 東日本大震災復興ボランティア活動報告会

1. 開催日時 平成24年11月7日（水）14時40分～17時10分
2. 会場 守山キャンパス 中講義室3
3. 参加者数 約90名（学生・教職員）
4. 次第 開会～震災復興支援委員長挨拶～全学同窓会長挨拶～グループ発表
5. グループ構成（8グループ）
  - 1グループ（活動拠点・気仙沼 8-9月 第1～2期）
  - 7グループ（活動拠点・岩手 8-9月 第1～7期）
6. 当日の様子

【復興支援委員長（鎌倉副学長）の挨拶】



【全学同窓会長の挨拶】



【報告に熱心に耳を傾ける参加者】



【グループごとに活動を総括】



## ボランティア促進プロジェクト

目 的 各グループがどのような活動を行っているかをできるだけ多くの学生に知ってもらうために食堂への通路であるH棟地下にパネル展示を行う。  
この展示物を用いて発表会を開催し、グループ活動への参加者の増員をはかるとともに活動をより発展させることを目的としている。

開催により得られるもの

- ・活動グループの増員
- ・活動の外部からの評価
- ・活動グループ同士の情報共有
- ・プロジェクト実施のための組織力養成

活動状況報告 パネル展示 平成24年11月19日～12月18日  
H棟地下スペース

発表会 平成24年12月19日（水）13時から15時  
グループによる報告会

発表グループ（発表順）

- ① スクールボランティア
- ② 人形劇サークル とびねこ
- ③ 愛知県立大学交流グループとよね
- ④ めだかの会
- ⑤ 生協学生委員会 iris
- ⑥ Let's 県大エコキャンパス
- ⑦ 夏銀河2012
- ⑧ あいねっと
- ⑨ リニモ沿線合同大学祭実行委員会

【H棟地下のパネル展示】



【発表会の状況】



## 【地域を支える人材の育成】

### (1) 学術講演会

平成24年度 学術講演会 実施結果

1. 講演名：「自然災害と文化ーフィリピン・ピナトゥボ山大噴火と東日本大震災ー」
2. 開催日時：平成24年5月22日（火） 12時50分～14時20分
3. 会場：S201特別講義室
4. 講師：清水 展 氏（京都大学教授、東南アジア研究所所長）
5. 聴講者数：191名（一般：46名、学生・教職員：145名）

【講演の様子】



【講演される清水氏】



【会場の様子】



【講演後の質疑応答】



## 平成24年度 学術講演会 実施結果

1. 講演名 「日本史研究と国際交流」
2. 開催日時 平成24年10月26日（月）12時50分～14時20分
3. 会場 長久手キャンパス 講堂
4. 講師 脇田晴子 氏（滋賀県立大学名誉教授）
5. 聴講者数 345名（一般：37名、学生：308名）

### 〈概要〉

滋賀県立大学名誉教授の脇田晴子先生をお迎えし、公開講座「グローバルとローカルの歴史世界」の基調講演としてご講演を頂きました。

また、冒頭には本学の能学部による脇田先生歓迎の仕舞「船弁慶」が演じられました。

### 会場の様子

【講演される脇田晴子氏】



【司会の上川通夫教授】



【脇田氏歓迎の仕舞の様子】



【会場全景】



## (2) 公開講座

### 平成24年度 公開講座 実施結果

1. 講座名 「グローバルとローカルの歴史世界」
2. 開催日時 第1回：11月10日（土）、第2回：11月24日（土）  
第3回：12月8日（土）、第4回：12月15日（土）
3. 会場 長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
4. 受講申込者 110名（修了証授与者、59名）

#### 〈講座内容〉

○第1回 受講者数74名

テーマ	講師
海を越えてきた文化 —古代東アジア世界と日本	丸山 裕美子 (日本文化学部歴史文化学科)
世界の中の源氏物語 —翻訳と享受	久富木原 玲 (日本文化学部国語国文学科)



○第2回 受講者数56名

テーマ	講師
近代世界システムにおけるカリブ社会 —グローバル文化と地域文化	梶原 克教 (外国語学部英米学科)
近代法文化圏をつないだ環太平洋 —日本とラテンアメリカの『遭遇』の歴史から	川畑 博昭 (日本文化学部歴史文化学科)



○第3回 受講者数63名

テーマ	講師
海とともに生きる都市 —大航海時代の港町景観—	山村 亜希 (日本文化学部歴史文化学科)
大航海時代の尾張国と信長 —16世紀後半尾張国瀬戸地方に出された信長の制札・禁制—	大塚 英二 (日本文化学部歴史文化学科)



○第4回 受講者数50名

テーマ	講師
海上の筏 —『名古屋港筏師一本乗り』という地域文化—	井戸 聡 (日本文化学部歴史文化学科)
外国籍住民との共生とコミュニティ	松宮 朝 (教育福祉学部社会福祉学科)



【会場の様子】



### (3) OB教員による講座「県大アゲイン」

#### 平成24年度 公開講座「県大アゲイン」 実施結果

1. 講座名 県大アゲイン「“日本”を学び直す—人文・社会科学の醍醐味—」
2. 日 程 第1回：7月8日（日） 第2回：7月15日（日）  
第3回：7月22日（日） 第4回：7月29日（日）  
第5回：8月5日（日）
3. 時 間 10時30分～12時00分
4. 会 場 県立大学サテライトキャンパス（名古屋市中村区名駅 ウィンクあいち15階）
5. 参加者 申込数79名（うち一般61名、同窓会生18名）  
修了証授与者50名（3回以上参加）

○第1回：受講者数 54名

テーマ：日本の古代史が残したもの—国、職、免—

講 師：梅村 喬氏（文学部、昭和51年から平成11年まで在職）



○第2回：受講者数 51名

テーマ：百済の古都を訪れた日本人—史蹟のコロニアル・ツーリズム—

講 師：米家 泰作氏（文学部、平成11年から平成15年まで在職）



○第3回：受講者数 46名

テーマ：感謝表現の日本語史

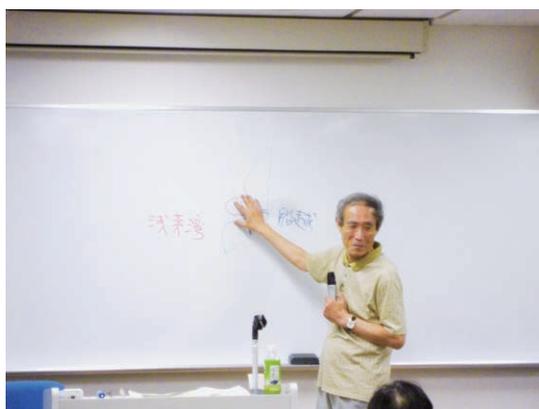
講師：田島 優氏（文学部、昭和63年から平成14年まで在職）



○第4回：受講者数 43名

テーマ：朝鮮時代の地図に描かれた日本

講師：山田 正浩氏（文学部、昭和46年から平成20年まで在職）



○第5回：受講者数 44名

テーマ：千年紀に発見・紹介された源氏物語古写本

講師：加藤 洋介氏（文学部、平成4年～平成18年在職）



#### (4) セミナー

##### 平成24年度 セミナー 実施結果①

1. 事業名称：「文化の記録と映像表現—民族誌映画の目指すもの—」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：亀井 伸孝（外国語学部 国際関係学科 准教授）
4. 開催日時：平成24年6月20日（火） 13時00分～17時00分
5. 会場：長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
6. 講師：川瀬 慈氏（国立民族学博物館 映像人類学者）
7. 聴講者数：約40名

【司会者の亀井先生と講師の川瀬氏】



【講演される川瀬氏】



【会場の様子】



【会場の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果②

1. 事業名称：「東日本大震災のその時、支援活動のこれから—私たちにできること—」
2. 事業種別：共催
3. 主催者：震災復興支援委員会
4. 開催日時：平成24年6月27日（火） 14時30分～16時40分
5. 開催場所：長久手キャンパス S101 特別講義室
6. 講師：山本 克彦氏（岩手県立大学 准教授）  
ボランティア団体Tree Seedメンバー（高木裕治氏、吉田由香氏、及川良氏）  
西村 浩希（愛知県立大学 外国語学部）
7. 聴講者数：43名

【Tree Seedメンバー高木氏の講演】



【岩手県立大学、山本准教授の講演】



【会場の様子】



【講演後のシンポジウムの様子】



平成24年度 セミナー 実施結果③

1. 事業名称：「浦島太郎とルーマニアの不老不死」
2. 事業種別：共催
3. 主催者：愛知県立大学日本文化学部・あいち国文の会
4. 開催日時：平成24年7月11日（水） 13時30分～15時00分
5. 開催場所：長久手キャンパス H004教室
6. 講師：ニコラエ・ラルカ氏（スピルハレット大学教授）
7. 聴講者数：約80名

【司会者の中根千絵先生】



【講演されるニコラエ氏】



【講演されるニコラエ氏】



【会場の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果④

1. 事業名称：「杉山特任教授・外務大臣表彰記念特別講演会」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：7月27日（金） 16：10～17：40 学術文化交流センター・小ホール
5. 会場：長久手キャンパス 小ホール
6. 講師：杉山三郎（愛知県立大学 大学院 国際文化研究科 特任教授）
7. 実施状況

【対象】学生、教職員、学外者可

【内容】「世界遺産を掘る：メキシコ考古学の魅力と伝統文化」

30数年にわたるメキシコでの発掘・研究成果を画像資料と体験談交えて語って頂きました。

【来場者数】66名

### 来場者感想

- ・月のピラミッドで発掘された黒曜石のナイフや装飾品が非常の精巧にできていて驚いた。
- ・メキシコシティーの中央広場の下に神話の世界だと思われたアステカ帝国の大神殿が埋まっていたということで、今後の調査によってはもっと発見がありそうなので楽しみだと思った。
- ・「生きた遺跡」ティオティワカンということでほとんど混血のメキシコ人にとってはメキシコ人のアイデンティティを知るのに重要なものであり、単なる歴史遺跡ではないということが印象にのこった。

### 【当日の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果⑤

1. 事業名称：あいち学セミナー「大航海時代の戦国あいち」
2. 事業種別：主催
3. 主催者：地域連携センター
4. 開催日時：平成24年8月26日（日） 13時30分～16時00分
5. 開催場所：愛知県陶磁資料館 本館講堂
6. 講師：服部 光真（愛知県立大学 大学院生）  
大塚 英二（愛知県立大学 日本文化学部 教授）  
山村 亜希（愛知県立大学 日本文化学部 准教授）  
アナ・ガルシア氏（東京大学 教養学部 准教授）
7. 聴講者数：約220名

【会場の様子】



【司会の上川教授】



【アナ・ガルシア氏の講演】



【質疑応答の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果⑥

1. 事業名称：「説話・伝承学会例会」
2. 事業種別：後援
3. 主催者：中根 千絵（日本文化学部 国語国文学科 准教授）
4. 開催日時：平成24年9月8日（土）13時30分～17時00分
5. 開催場所：長久手キャンパス H201教室
6. 講演内容：「新城の火おんどり—信玄塚の魂鎮め—」  
湯浅大司氏（設楽原歴史資料館主任学芸員）  
「湖南省の除災招福の祭祀芸能“韓信の猫退治”」  
廣田律子氏（神奈川大学経営学部教授ヤオ族文化研究所所長）  
「火祭りの魂鎮め」  
井本英一氏（大阪外国語大学名誉教授）
7. 聴講者数：約50名

### 【当日の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果⑦

1. 事業名称：「JICA ボランティアセミナー」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：亀井 伸孝（外国語学部 国際関係学科 准教授）
4. 開催日時：平成24年10月15日（月） 14時30分～16時00分
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 講師：佐屋 達紀氏（青年海外協力協会 中部支部 ボランティア事業担当）  
末吉 美由紀氏（派遣国：ケニア、主な活動：エイズ対策）  
鈴木 洋次氏（派遣国：パラグアイ、主な活動：村落開発普及員）
7. 聴講者数：約380名

【会場の様子】



【講演の様子】



【講演の様子】



【質疑応答の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果⑧

1. 事業名称：フォーラム「モンゴルの多面性とその現在」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：2012年10月22日（月）14：30～16：00  
10月23日（火）12：50～14：20
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 参加人数 10月22日 388名、10月23日 127名

### <講演内容>

10月22日はスヘー・バートルガ（モンゴル大学教授）、ソロンガ（多文化共生研究所客員共同研究員）、スイジェ（国際文化研究科 博士後期課程在籍）の順でモンゴル国と中国内モンゴル自治区について説明があった。

内容、出席者の感想：中国政府の少数民族への差別是正措置は現実には反映されておらず、民族語教育、伝統文化は衰退の一途である。携帯電話の普及率がウランバートルでは86.9%との数字に驚きの声があった。地方からの都市への移住者の増加により空気汚染、インフラ、衛生について社会問題となっている。

10月23日はバートルガ教授、石井祥子（本学非常勤講師）によるモンゴルのカザフ社会の説明があった。

内容、出席者感想：モンゴルは多民族国家で20のエスニック集団がある。社会主義から市場経済化し、伝統文化・アイデンティティの復活があり、イヌワシ祭やカザフの新年ナウルズという行事が復活した。

イスラム教徒が多く、サウジアラビア、トルコからの援助を受けモスクの建立やメッカへの巡礼を行っている。イスラムの国へ留学に行く若者が多いのが意外であったという意見があった。

【講演の様子】



【講演の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果⑨

1. 事業名称：「介護・医療・生活支援向けパートナーロボットの開発」
2. 事業種別：主催
3. 主催者：地域連携センター
4. 開催日時：平成24年11月6日（火） 12時50分～14時20分
5. 開催場所：長久手キャンパス 学術文化交流センター 小ホール
6. 講師：高木 宗谷氏（トヨタ自動車株式会社理事 パートナーロボット開発部）
7. 聴講者数：70名（うち学生48名、一般、教職員22名）
8. 講演概要

トヨタ自動車理事の高木宗谷氏をお迎えし、医療・介護分野、家事アシストといった領域での、パートナーロボットについての研究や先端技術についてのご講演を頂きました。「自立歩行アシスト」「歩行練習アシスト」「バランス練習アシスト」「移乗ケアアシスト」等の実用的なロボットを映像、音楽とともにご紹介頂きました。

【講演される高木氏】



【戸田センター長の挨拶】



【会場の様子】



【講演の様子】



平成24年度 セミナー 実施結果⑩

1. 事業名称：「フィクションの言語一人称体系を中心に」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：平成24年度学長特別研究費  
「日本語における一人称散文の成立と展開に関する研究」研究グループ  
(久富木原玲、伊藤伸江、福沢将樹、東弘子)
4. 開催日時：平成24年12月4日(火) 10時30分～12時00分
5. 会場：長久手キャンパス S101特別講義室
6. 講師：中山 眞彦氏(東京工業大学名誉教授)
7. 聴講者数：(学生)約121名 (教員)約10名
8. 講演の様子

【講演される中山氏】



【講演の様子】



【講演の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果①

1. 事業名称：「音のない3.11」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：平成24年12月17日（月）14：30～16：00
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 参加人数：234名

### <講演の概要>

最初の23分で東日本大震災におけるドキュメンタリーを上映した。取材中にも震度6の余震を体験し、情報を得られない恐怖を感じたこと、ろう者がぶつかる様々な壁を取材したという内容。

### <参加学生の感想>

- 命と安全にかかわる重要な情報が伝わっていないという、情報格差という問題を今回はじめて考えさせられた。
- 外国人の方など言葉が通じない方も同じ状況だったろうと思った。
- 避難所生活ではなかなか手話を解する人がいないので周囲の状況を目でみながら行動していたということで精神的にもとても疲れただろうと感じた。
- 震度6という余震の映像がとても生々しく恐怖を感じた。
- ニュースやラジオの情報もろう者の方は手話がついていないと情報が得られず人づてにたのんで通訳してもらうしかなく大変だと思った。
- 普段の生活でもたとえば電車のアナウンスが聞こえないため、なにかあったときに情報がわからなくて困っていることがわかり助けてあげなければならないと思った。

【講演の様子】



【講演の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果⑫

1. 事業名称：講演会「ろう者の文化、聴者の文化」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：平成24年12月24日（月）14：30～16：00
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 参加人数：344人

### <講演内容>

神奈川県立平塚ろう学校教員 秋山奈巳さんによる文化的な視点からろう者のことを語って頂いた。

- 医学的な見方→聴覚障害者 約30デシベルより上回るとあてはまる。
- 日本では聞こえない基準が厳しい。WHOはもう少し基準が緩い。
- アメリカでは音楽を聴いて楽しめるレベルでも聴覚障害者となる場合がある。
- ろう学校は円形に机を並べる。振動で相手に気づいてもらう。
- きちんと目を見て話す必要がある。相手がものを書いていたら顔を見るのと同じにはできないので書き終わるまでまつ。ろう者の中には目を合わせる人に違和感を持つ方がいる。
- 手話において指さしは目的語を指示するために重要。
- 音がどれくらい大きいかわからないことが多い。ろう学校で子供に注意するときは頭ごなしに怒らず、説明してわかってもらう必要がある。
- ろうという一つの言語を共有する集団である。

### <参加者の感想の一例>

- ろう者にとって目を見ること、指をさすことは表現として重要なことだと分かった。健常者から誤解をうけることもあると聞き、気を付けようと思った。
- 手話も言語と同じように新しい言葉が作られることがあると知って驚きだった。

【講演の様子】



【講演の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果⑬

1. 事業名称：White Noise, Quantum Information and Statistics International Workshop on IDAQP
2. 開催日時：平成25年1月7日（月）～9日（水）
3. 会 場：長久手キャンパス 多目的ホール
4. 参加者数：参加者62名
5. 内 容：ブラウン運動など自然界の偶発的な「ゆらぎ」を数学的に解析する手法「ホワイトノイズ解析」の基礎を構築した名古屋大学・飛田武幸名誉教授と本学・情報科学部・SiSi准教授が国際的な研究集会を開催した。ホワイトノイズ理論は、偶然現象の解析を行うとき、従来の確率・統計の理論を超えて、量子の世界にまで立ち入って議論できる新しい数理である。そのため、この理論が提唱された当初から、量子力学や量子情報理論と深い交流を保っている。続いてバイオサイエンスにまで応用されているのが現状である。それだけに、応用面からホワイトノイズの数理への問題提起も多く、それらの解決が強く要望されるようになった。この際、数理と物理学、情報理論の研究者達が学問の境界を超えて、国際的にも共同で当面の重要な研究課題に取り組むとき、重要な研究課題の解決につながると確信する。統計学との連携は数理の側からは未開発な面が多いが、将来に向けて挑戦することには意義があると考え。例えば、現在の統計数理では、扱いにくいデータの解析が、いくつか知られているが、それらを扱うため、ホワイトノイズ解析や量子情報の立場から用意される研究手法の有効性を期待するものである。

【飛田名誉教授：中央、SiSi准教授：右側】



【当日の様子】



## 平成24年度 セミナー 実施結果<sup>⑭</sup>

1. 事業名称：「ルーマニア・トランシルヴァニア地方の民族芸能：公演と解説」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：平成25年1月21日（月）14：30～16：00
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 参加人数：141名

### <講演内容>

ハンガリーから著名な演奏家をお招きし、講演および演舞を披露して頂いた。前半では、ハンガリーの文化や生活についてスライドやビデオ上映などで説明し、後半では、バグパイプやコブザなどの楽器を使用した演奏に合わせて伝統的な踊りを見せて頂いた。

### <参加学生の感想>

- ハンガリーの食文化に欠かせなのがパプリカであったり、ルービックキューブはハンガリー人が発明したものであったり、温泉好きであることを今回初めて知った。日本人と共通すること、似ていることがあって、身近に感じた。
- ユネスコ無形文化財に登録されたという音楽を実際に生で見ることができて本当に貴重な体験になった。
- あらゆる民族の音楽を尊重するなど、日本と違う大陸のおおらかさというものを感じた。
- どの演奏も独特のリズムで、陽気なメロディで力強い。また地方が変わると民族音楽の雰囲気が変わる。
- 主線派は一本だけで似たフレーズを繰り返す。アップテンポの曲が多いが哀愁を感じる。音楽に合わせたダンスも常に雨後金があるもので、体をたたいたり、足踏みをしたりしていた。音楽を通じて人々の心が通じ合い同じ時間を過ごすことは民族の結集にとっても重要なことだと感じた。

【演奏、演舞の様子】



【演奏、演舞の様子】



平成24年度 セミナー 実施結果⑮

(協力：あいち産業振興機構)

1. 事業名称：はじめてのインドネシア語講座
2. 事業種別：共催
3. 主催者：ガジヤマダ部会
4. 開催日時：平成25年2月4日（月）～6日（水）、12日（火）、13日（水）
5. 会場：サテライトキャンパス
6. 参加者数：申込者38名 修了受講者28名
7. 講座内容：ESDあいち・なごやパートナーシップ事業（国際理解）

本学教員によるオリジナルテキストを用いて、はじめてインドネシア語を学ぶ人を対象に基本文法をはじめ、簡単な会話や辞書をひけるまでになるようになるまでを全5回の講座で行う。口語練習についてはガジヤマダ大学から留学している大学院生がTAとしてネイティブの発音を示した。

8. 講師：外国語学部・中国学科・准教授 小座野八光  
外国語学部・客員共同研究員 高地 薫  
国際文化研究科 博士前期課程 ルフィ・ワヒダティ

【講座の様子】



## (5) 知の探究講座

平成24年度「知の探究講座」(県教委事業)実施結果  
(高大連携事業、情報科学部公開講座)

講座名 「情報化社会を生きる」  
会 場 長久手キャンパスC棟内  
参加者 30名(県内高校からの希望者)

### 日程および内容

	実施日	担当教員	講座内容
第1回	8月16日(木)	戸田尚宏 教授 成瀬 正 教授 櫻井桂一 教授	①ハードとソフトの密接な関係 ②コンピュータの基礎 ③アルゴリズム(計算手順)の話 ④エディタ、コンパイラ、コンピュータ利用環境
第2回	8月17日(金)	山村 毅 准教授	Cプログラミング～やさしい入門～
第3回	8月20日(月)	小林邦和 准教授	Cプログラミング ①データとはなんだろう ②計算式を書いてみよう
第4回	8月21日(火)	作村諭一 准教授	Cプログラミング ①あっちへ行ったりこっちへ来たり ②関数を書いてみよう ③関数と変数
第5回	9月29日(土)	代田健二 准教授	第I期の復習(制御構造、関数)配列
第6回	10月20日(土)	臼田 毅 准教授 大久保弘崇 講師	配列と画像処理 アルゴリズムとプログラム
第7回	10月27日(土)	河中治樹 講師	課題に挑戦
第8回	11月10日(土)	金森康和 准教授	課題に挑戦
講座別発表会	12月8日(土)		愛知県立大学の受講生30名を9グループに分け、発表会を行った。

※時間は各日とも10:00～17:20



【第4回】



【第5回】



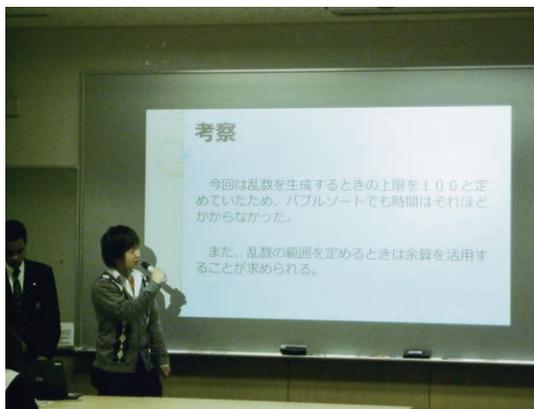
【第6回】



【第7回】



【第8回】



【講座別発表会】



(6) あいち地域づくり連携大学

平成24年度「あいち地域づくり連携大学」実施結果  
(愛知県地域振興部との共催)

1. 開催日及び主な内容

	開催日	内容
第1回	10月31日(水)	開講式(趣旨説明、県地域振興部地域政策課長・県立大学長挨拶)
		基調講演(吉田一平氏 長久手市長)
		論点整理(松宮朝 愛知県立大学教育福祉学部准教授)
		意見交換
第2回	11月14日(水)	活動報告(本学学生グループ「あいねっと」・「RUFF」) ミニシンポジウム
第3回	11月28日(水)	事例報告・意見交換(松井茂明氏 田原市 市民協働課 副主幹)
第4回	12月12日(水)	事例報告・意見交換(神谷孝彦氏 刈谷市 市民協働課 課長) (長谷川満氏、水谷さわ子氏 小垣江地区)

2. 会場 第1回：長久手キャンパス 多目的ホール 第2回：サテライトキャンパス  
第3回：東三河総合庁舎 第4回：刈谷市役所

3. 参加者数 第1回：90名 第2回：14名  
第3回：21名 第4回：26名 延べ151名

4. 事業の様子

【第1回】



【第2回】



【第3回】



【第4回】



## (7) 愛知県地域づくり研修交流会

### 平成24年度「愛知県地域づくり研修交流会」実施結果 (愛知県地域振興部との共催)

1. 開催日 平成24年2月8日(金) 14:00~17:30
2. 会場 学術文化交流センター多目的ホール
3. 参加者 119名
4. 研修交流会 ①平成24年度愛知県地域づくり活動表彰式及び事例発表  
「伊古部町笹百合保存会」、「犬山城東小学校区コミュニティ」、  
「松嶺ささゆり群生地保存会」  
②愛知県立大学 学生グループ「あいねっと」による活動報告  
「震災の現場から学んだコミュニティの力」  
③講演「地域活性化のアイデアは無限大～神子原地区が元気になった理由」  
高野誠鮮氏(石川県羽咋市職員、総務省地域力創造アドバイザー)
5. 会場の様子

【活動表彰式】



【事例発表】



【「あいねっと」による活動報告】



【高野氏講演】



## (8) 看護職教育・研究支援事業：各種セミナー

## H24年度 看護実践センター各種セミナー（実績）

開催日	講座名	定員	開催日 受講人数
平成24年5月29日（火）	看護研究スキルアップ講座① 「看護研究の基礎」 講師：古田加代子准教授 「研究のための統計入門」 講師：藤原奈佳子教授	150名	105名
平成24年6月22日（金）	看護研究スキルアップ講座② 「臨床看護研究における倫理と手続き」 講師：片岡 純教授 「質的研究入門」 講師：儘田 徹教授	150名	90名
平成24年7月21日（土） 平成24年7月22日（日）	精神看護CNSフォローアップセミナー 講師：遊佐 安一郎先生 第1回「CBTとDB」	20名	11名
平成24年9月1日（土） 平成24年9月2日（日）	精神看護CNSフォローアップセミナー 講師：遊佐 安一郎先生 第2回「スキーマ療法」	20名	11名
平成24年10月27日（土） 平成24年10月28日（日）	精神看護CNSフォローアップセミナー 講師：遊佐 安一郎先生 第3回「家族システムと家族療法」	20名	10名
平成24年8月28日（火）	「摂食・嚥下障害看護 口腔ケアセミナー」 （鎌倉やよい講師、山根由起子講師）	60名	71名
平成24年9月～ 平成25年3月まで	看護研究個別指導	10名 （組）	8名 （組）
平成24年12月22日（土）	認定看護師教育課程フォローアップセミナー（冬期） （片岡純講師、大木純子講師）		146名
平成24年12月22日（土）	認定看護師教育課程がん化学療法看護分野認定審査 試験対策セミナー（第1回）		16名
平成25年2月22日（金）	医療者のためのタッピングタッチセミナー （中川一郎講師）	110名	42名
平成25年2月22日（金）	認定看護師教育課程がん化学療法看護分野認定審査 試験対策セミナー（第2回）		18名
平成25年3月2日（土）	看護管理者のための経営・経済セミナー （渡辺幸子講師）		82名
平成25年3月9日（土）	看護師教育課程フォローアップセミナー（春季） （杉浦伸一講師）		106名
平成25年3月22日（金）	がん看護・老年看護・家族支援CNSフォローアップ セミナー	20名	20名 予定
合計			708名

## 【地域の多様な団体との連携】

### (1) 長久手市との包括連携協定

本学と自治体との包括連携協定締結は、長久手市との協定が初めてとなります。

本学と長久手市とは、これまで教育やまちづくり事業の連携を中心に、さまざまな事業で協力関係を築いてきました。本協定の締結により、地域協働への取り組みを発展させ、大学と市との組織的なつながりを強化し、大学と地域との交流を促進していきます。

【協定書署名後の握手】



【吉田一平市長の挨拶】



【高島忠義学長の挨拶】



【協定書】



## (2) 愛知県陶磁資料館との包括協定

愛知県陶磁資料館と愛知県立大学が、その近接性と相互の専門性を活かして、広く地域社会の文化芸術、学術研究等の振興に寄与するため、「連携に関する包括協定」を締結しました。

これまで両者は、県立大学における歴史、民族学、地理学等の調査研究活動と陶磁資料館の陶磁史研究における共通テーマの研究成果について、共同企画展を開催し発表してきましたが、このたび連携に関する包括協定を締結することにより、両者が保有する情報、資源、研究成果等の交流をさらに深め、共同企画展の充実強化、学生の陶磁資料館を活用した研究活動への支援、両者の活動のさらなる活性化等を目指すこととしました。

### 1 協定締結日

平成24年7月1日

### 2 連携内容

- (1) 陶磁資料館及び県立大学における文化芸術、学術研究等に関する調査研究及び教育
- (2) 陶磁資料館及び県立大学における調査研究等の成果公開
- (3) 陶磁資料館と県立大学の活動の活性化と向上に関すること
- (4) その他陶磁資料館と県立大学が協議して必要と認める事項

### 3 当面の連携事業

- ・共同企画展「戦国のあいち展」開催（平成24年7月28日（土）～9月30日（日））
- ・陶磁資料館において、県立大学の学生に対する学芸員資格取得のための講義を実施
- ・県立大学と陶磁資料館を結ぶシャトルバス運行の検討（時期未定）
- ・両者のホームページ等へのイベント情報掲載

### 4 参考（これまでの連携状況）

- (1) 共同企画展の開催
  - 平成21年度「メキシコの世界遺産・写真展」
  - 平成22年度「1000年前のハローワーク」
  - 平成23年度「アンデス・メソアメリカ文明展」
- (2) 留学生の体験授業
  - 茶室を利用した日本文化体験

### (3) 産業界との連携事業

#### エレクトロニクスショー 2012 実施結果

1. 開催日程：平成24年10月16日（火）～17日（水）
2. 会場：名古屋国際会議場
3. 講演概要

10月16日と17日の2日間で、名古屋国際会議場で開催されたエレクトロニクスショー 2012において、本学から村上研究室がブース出展で参加、3つの研究室がパネル展示を行いました。

ブースでは、サーモビジョンカメラを使った個人認証システムのデモンストレーションを行いました。

【村上研究室の出展ブース】



【イベントの告知ポスター】



## クルマ未来博2012実施結果

1. 開催日程：平成24年11月16日（金）～11月18日（日）  
10時00分～17時00分
2. 会場：愛・地球博記念公園

【小栗研究室の展示ブース】



【井手口研究室の展示ブース】



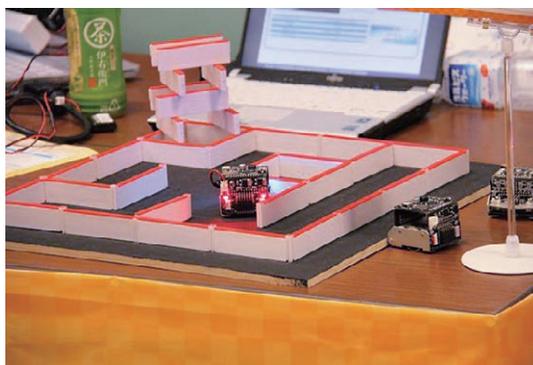
## あいち次世代ロボットフェスタ実施結果

クルマ未来博2012と同時開催（愛・地球博記念公園にて）

【展示の様子】



【展示の様子】



## 第11回 ITS シンポジウム ～ しなやかなユニバーサル社会をつくる ITS ～



### 1. 開催概要

- ・期日：12月12日 プレイベント「ITS Japan 会長 渡邊浩之講演『自動車、20世紀から21世紀へ ～カール・ベンツからプリウスへ、そして未来は？～』  
13日 開会式、企画セッション、対話セッション、バンケット  
14日 企画セッション、対話セッション、閉会式(表彰)
- ・会場：愛知県立大学 講堂・学術文化交流センタートヨタ博物館
- ・参加： 280名(集計中)  
100名(公開セッションへの一般参加)
- ・投稿論文：112編

### 2. イベント

#### ① プレイベント

シンポジウムに登録された方の中から12名が参加された。

はじめにガソリン自動車の第1号とされるベンツ パテント モートル ヴァーゲン(1886年製 / レプリカ)やT型フォードなどが披露され、ベンツは渡邊会長が運転してみせた。

冒頭の講演では会長から、日本は自動車の技術開発の初期の段階では貢献できなかったが、これからのイノベーションは日本の若い技術者が担って欲しいとの想い、またハイブリッド車プリウスの開発にかかる経営者の決断、開発の前倒しを実現した技術の力などが紹介された。

質疑では、自身の開発者としての経験から、社内外を問わず新しい技術は受け入れることの大切さ、今後のEVとガソリン自動車等の役割分担、プリウス開発における苦勞、同じモデルを何代にも渡って乗り続けるユーザーの評価の大切さなどを話された。



T型フォード



展示会場見学



ガソリン自動車第1号試走

## ②シンポジウム

### -1. 企画セッション

4つのセッションが開催された。セッション毎に差異はあるものの、それぞれにおける議論のポイントが明確であったこと、パネリストが自身の専門性に立ったプレゼンテーションを行ったこと、モデレーターが全体の議論を上手く導き、かつまとめたこと等の結果、聴衆にとって分かりやすく、課題への新たな取り組みの視点を得られるセッションとなった。

毎回企画セッションの一つを公開セッション(無料)とするとともに、今回は愛知県立大学の授業の一環として認められたことからか、100名強の学生も聴講した。



企画セッション2-1のパネリストの皆さん



学生中心の一般聴講者

#### 【企画セッションテーマ】

1-1 「データセントリックとITS」

1-2 「エネルギーITS」

2-1 「モビリティディバイド・高齢者支援 ITS」(市民公開セッション)

2-2 「スマートコミュニティとITS」

## -2. 対話セッション

質的には例年通り様々だが、中には斬新な視点からの取り組みが高く評価されたものもあった（ベストポスター賞を受賞）。30秒という限られた時間内での発表やポスターの説明においては、事前に練習を行ってくるのか、極端な時間超過も無く、慣れを感じた。



ショットガンの順番を待つ発表者

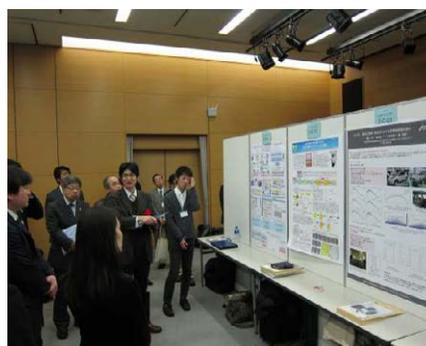


30秒の闘い

公開討議では類似のテーマを取り上げた研究者による議論を喚起するなど、モデレーターの手慣れた運営が活気のある場を生んでいた。



1分間で研究成果を説明、続いてQ&A



個々の説明、質疑の後で公開討議

### 【ベストポスター賞の受賞テーマと授賞理由】

- ① 論文名：路面電車の位置情報配信から街のナビゲータを目指して  
選評： ユーザーデバイスを用いた運行情報提供は一般市民の利便性を高めるとともに減災にも役立つ。時刻表のないフレキシブルな鉄道運行と街歩きが新しい観光スタイルを生む。
- ② 論文名：工事入札公告を用いた道路更新情報の推定可能性に関する研究  
選評： プロブデータ等の通常の交通データではなく、ウェブ上で公開されている工事入札公告を用いて道路情報を更新するという発想が優れており、実用化が期待される。
- ③ 論文名：料金収受システム向けステレオ車両検知の開発  
選評： ステレオカメラを用いて料金所を通過する車両を検知するシステムの紹介。対象アプリケーションが明確であり、対・環境性や車両の動きなど、現実に即した評価がされている。アルゴリズムの紹介が的確であり、質問者の意図をくんだ回答をしておられた点も高く評価された。
- ④ 論文名：ドライバ特性に着目したベクション刺激の効果  
選評： ベクション刺激という新規性のある技術のすばらしさと、運転特性に分けて、その効果を示したところに研究としての独創性とレベルの高さが見られる。
- ⑤ 論文名：災害時と平常時の交通マネジメントのためのデータ融合と解析  
選評： 東日本大震災の交通マネジメントを対象とした研究でタイムリーである上、大変わかりやすいポスターと説明で複雑な研究体系と内容が表現されている。

- ⑥ 論文名: HOG ベースの Bag of Features による原動機付自転車ナンバープレート検出  
 選評: 原動機付自転車のナンバープレートの形状や模様が都道府県ごとに異なるという新しい問題に着目し、これを解決する優れた手法を提案、さらに実証実験でその有効性を確認したことがしっかりとプレゼンテーションされた。
- ⑦ 論文名: 道路カント変化を考慮した操舵制御と自動チューニング法  
 選評: エネルギーITS 推進事業における隊列走行の操舵制御に関して、カントの切り替わり部の推定により高精度な制御性能を実現する手法が提案され、実際の環境下で生じる実問題に対して、その解決方法を示す内容であり、実用化に対する大きな貢献をもたらすことが期待される。
- ⑧ 論文名: 運転中の有効視空間推定に向けた注視点の奥行き方向移動距離に対する認知時間の変化  
 選評: 人の空間認識において奥行きに注目した着眼点が良く、不明瞭だった問題を明らかにし、サイン計画や安全対策に関する新しい基準を提示する可能性があり、応用・展開を期待させる研究。

### 3.岩田プログラム委員長による総括 (ITS Japan まとめ)

- ・今回のシンポジウムでは、企画セッション 1-1「データセントリック ITS」にみられるように時宜を得たテーマを選定し、議論していただいた。
- ・また 120 もの論文を投稿いただいたが、論文の選考は厳正に行われ、そこから 3 編の優秀な論文が選ばれた。
- ・参加者も 280 名以上にのぼり、また一般の方、学生他多くの方に参加いただいた。
- ・ITS Japan の渡邊会長にはプレイベントを企画、自ら参加いただき、普段は動かしてもらえない旧いクルマの実走行も披露いただき貴重な体験ができた。
- ・プログラムを検討するにあたっては、テーマに定めた「しなやかなユニバーサル社会をつくる ITS」に沿って、しなやかな、柔軟性の中にも力強さがあり、平常時にも災害時にも役立つユニバーサルな ITS とは何かを議論することを目指した。
- ・様々な、興味深い話題提供をしていただいたパネリストの皆さん、活発な議論を導いたモデレーターの皆さん、そしてシンポジウムに参加していただいた皆さんに感謝申し上げます。

以上

#### 【優秀論文名と授賞理由】

- 論文名: 車線変更を考慮した車両マッチング手法に基づく旅行時間計測  
 選評: 車線変更確率や車間流入確率をモデルによって表現し、パターンマッチングを用いて旅行時間を計測する手法は独自性が高く、技術的有用性も高い。
- 論文名: 車両感知器整備減少を背景とした信号制御方式の評価  
 選評: 今後における車両感知器整備数の減少を考える必要性に着目し、投資効率と制御効果の高い方を具体的に検討しており、この独自性、社会的意義は極めて高い。
- 論文名: 自車位置推定のための複数車載カメラ映像の効率的な時空間マッチング手法  
 選評: 専用のプローブカーからの映像だけでなく、一般の車載カメラからの映像を対応付ける手法のご提案で、今後の実応用への展開が大いに期待される。

## NTTドコモ「NCA2012」最終審査会・表彰式 実施結果

**事業名** NEXT COMMUNICATION AWARD 2012  
**日程** 平成25年1月12日（土）  
**会場** ヒルトン名古屋  
**応募数** 687作品  
**概要** NTTドコモの主催するスマートフォンアプリのコンテストに本学の学生が多数参加し、総応募数687作品の中で、スマートフォンサイト部門で2作品、デコメ絵文字pop部門で4作品が入賞しました。

### 【特別審査員の菊川怜さんと受賞学生】



### 最終審査結果

#### アプリ部門

賞	作品タイトル	代表者名	学校名
👑	グランプリ ベン番字アプリ もじもじなぞりずむんぷ	橋本 左弥花	中央大学
👑	準グランプリ Website Structures	山崎 雅仁	愛知工業大学
👑	敢闘賞 まっほけ	小原 豊大	東海職業能力開発大学校
👑	入賞 おねこの軍団クエスト	前田 恵美	名古屋文理大学
	ジョシヨクあげあげ大作戦!	岡村 健司	愛知産業大学
	Stage_0	藤野 美枝	独逸工業高等専門学校
	ハースデーメールジェネレーター	日高 洋介	名城大学
	届きたし時計プラス	田辺 良之	東海職業能力開発大学校

#### スマートフォンサイト部門

賞	作品タイトル	代表者名	学校名
👑	グランプリ 日替わりおすすめメニューとお勘定計算	福田 龍	愛知工業大学
👑	準グランプリ コメダの「心」を伝える	辻井 麗	名古屋情報メディア専門学校
👑	敢闘賞 きっとあなたもたくなる! コメダ珈琲店	細江 成洋	名古屋大学大学院
👑	入賞 おえがきコメダ!	伊東 隆也	名古屋文理大学
	コメダのメニュー新発見	水上 真晶	愛知工業大学
	Simple Is Best	太田 尚祐	浜松情報専門学校
	今年代に需要のあるHP	高橋 壮次	愛知工業大学
	僕たちのコメダ	長谷川 謙一	愛知工業大学大学院

#### デコメ絵文字pop®企画部門

賞	作品タイトル	氏名	学校名
👑	グランプリ サボッてん	栗田 雄太	HAL 名古屋
👑	敢闘賞 飯釜パン	栗村 沙也	横山女学館大学
	にごす	稲垣 理美	名古屋大学
👑	入賞 バンダと麻張ろう	足立 英華	名古屋工学院専門学校
	あひね・・・えっどね・・・	小山 友理	愛知工業大学
	いっしょに歌おう!!	松井 祐太	HAL 名古屋
	お誕生日おめでとう	高橋 はづき	横山女学館大学
	おめでとう	林 真理奈	愛知淑徳大学
	おめでとう!	豊崎 真希	名古屋大学
	記念日メール	戸塚 衣美	愛知工業大学
	ここに逢ひして、	山本 琢磨	名古屋文理大学
	THANK YOU FLOWER	氏田 有美	横山女学館大学
	満灯	木下 健太郎	トライデント・コンピュータ専門学校
	土下座ピラミッド	井原 駿	名古屋情報メディア専門学校
	友達や恋人	山下 花佳	名古屋文理大学
	Nice to meet YOU!!	村上 知希	トライデント・コンピュータ専門学校
	虹	伊藤 由紀	名古屋文理大学
ハートへ届けろハートのハート	市川 真大	愛知工業大学	
HAPPY BIRTHDAY	伊藤 沙也加	愛知工業大学	
本気の挨拶	青木 唯	愛知淑徳大学	

※作品の掲載順序は「作品タイトル」の五十音順です。

## 瀬戸商工会議所パソコン講習会実施結果

(瀬戸商工会議所との共催)

1. 開催日時 平成25年3月4日(月)～8日(金) 18時30分～20時30分
2. 会場 情報科学部棟コンピュータ演習室等
3. 参加者 瀬戸市内の小規模事業者24名
4. 目的 小規模事業者のレベルアップを図るため、パソコン講習会を実施
5. 講師及び内容

データ活用コース 14名		
3月4日	パソコンをビジネスに活かす	神山 斉己 教授
3月5日	ワードで案内文づくり	吉岡 博貴 准教授
3月6日	エクセルで住所録とラベル作成	粕谷 英人 講師
3月7日	エクセルで商品の売上予測をしよう	永井 昌寛 教授
3月8日	パワーポイントでPRスライドを作ろう	竹治 勲 大学院生

スマホ・タブレットコース 10名		
3月4日	スマホ・タブレットって何？	小栗 宏次 教授
3月5日	スマホ・タブレットを触ってみる	代田 健二 准教授
3月6日	スマホ・タブレットを使ってみる	竹治 勲 大学院生
3月7日	スマホ・タブレットを遊んでみる	作村 諭一 准教授
3月8日	スマホ・タブレットを活用する	河中 治樹 講師

## 6. 会場の様子

【開講式】



【講習風景】



## 5. 他大学調査

### 平成24年度地域連携センター事例調査 調査項目

#### ○大学の地域連携事業について

- ・中期計画の見直しについて、どの程度進んでいますか。
- ・貴学が力を入れている地域連携事業は何ですか。(あれば複数)
- ・貴学で新しく取り組んでいる、または計画している事業はありますか。
- ・高大連携については、どのような取り組みを行っていますか。
- ・大学が行政のシンクタンクの機能を持つという事について、どのように考えていますか。

#### ○公開講座・学術講演会について

- ・学内の講座・講演会などについて、情報の集約やPRをどのように行っていますか。
- ・学内および学外講師の謝礼について、どのような基準を持っていますか。
- ・公開講座等の受講料の算出方法について、どのような基準を持っていますか。
- ・講座・講演会の記録方法や、インターネットなどを使ったアーカイブ化について、現在どのように行っていますか。また、将来的にはどうですか。

#### ○産学連携について

- ・近年(数年間)の産学連携の取り組みや実績について。
- ・産学連携の学内組織(教員および事務)はどのようになっていますか。
- ・文系学部の産学連携について、どのように考えていますか。

#### ○大学COC (Center of Community) 事業について

- ・この事業について、今後どのように取組まれるお考えですか。
- ・貴学では、この事業に該当する取り組みや教育プログラムを行っていますか。  
(地域問題解決の研究や教育プログラムや地域の人材育成に関する取り組み)
- ・設置団体との施策の確認や連携について、定期的に意見交換を行う場を設けていますか。  
また、その考えはありますか。

(その他、大学ごとに個別の質問を作成)

○調査対象大学及び調査実施日

大学名	対応部署	実施日
兵庫県立大学	学務部社会貢献課	24.11.1
京都府立大学	事務局企画課	24.11.2
会津大学	事務局企画連携課	24.11.19
高崎経済大学	研究推進課研究支援担当	24.11.20
島根県立大学	地域連携推進センター	24.11.29
岡山県立大学	地域協働研究機構 産学官連携推進センター	24.11.30
県立広島大学	地域連携センター	25.3.13
高知工科大学	地域連携センター	25.3.14

## 6. 参考資料

○ポスター・チラシ

【学術講演会・公開講座ポスター】

愛知県立大学 平成24年度学術講演会・公開講座

# グローバルとローカルの歴史世界



愛知県立大学では、これまでの研究蓄積とこれからの現実課題を広く世に問うため、学術講演会と公開講座を実施しています。今回は「グローバルとローカルの歴史世界」が共通テーマです。基調となる学術講演会では、歴史学者にして文化勲章受章者、脇田晴子先生をお迎えします。ついでに本学教員による系統的な講演会を開催します。人文・社会科学分野における学術の最前線から、私たちの将来を展望する試みです。

**学術講演会** 申込不要

**10/26金**  
12:50~14:20

**参加費 無料**

会場  
愛知県立大学  
長久手キャンパス講堂

**講師**

**脇田 晴子**  
滋賀県立大学名誉教授  
タイトル  
「日本史研究と国際交流」



**公開講座** 申込必要 各日13:30~16:40

<p><b>11/10日</b> 古代文化の世界性-日本の歴史と文学</p> <p>丸山裕美子 講師 / 日本古代史 「海を越えてきた文化 -古代東アジア世界と日本」</p> <p>久富木原玲 講師 / 日本古代文学 「世界の中の源氏物語-翻訳と享受」</p>	<p><b>11/24日</b> 環大西洋と環太平洋-近現代のカリブとラテンアメリカ</p> <p>梶原克教 講師 / 英語圏文化 「近代世界システムにおけるカリブ社会 -グローバル文化と地域文化」</p> <p>川畑博昭 講師 / 比較憲法学 「近代法文化圏をつないだ環太平洋 -日本とラテンアメリカの「遭遇」の歴史から」</p>
<p><b>12/8日</b> 大航海時代の戦国愛知-ヨーロッパと日本</p> <p>山村亜希 講師 / 歴史地理学 「海とともに生きる都市 -大航海時代の港町景観」</p> <p>大塚英二 講師 / 日本近世史 「大航海時代の尾張国と信長 -16世紀後半尾張国瀬戸地方に出された信長の制札・禁制」</p>	<p><b>12/15日</b> 愛知におけるグローバルとローカル-将来への道</p> <p>井戸 聡 講師 / 地域社会学 「海上の筏-「名古屋港筏師一本乗り」という地域文化」</p> <p>松宮 朝 講師 / 地域社会学 「外国籍住民との共生とコミュニティ」</p>

定員 120名(申込先着順)    受講料 1,000円(全4回分)    会場 愛知県立大学 長久手キャンパス 学術文化交流センター

**公開講座 申込方法** 往復ハガキまたはEメールに、住所、氏名(ふりがな)、電話番号をご記入の上、下記お申込先までお送りください。

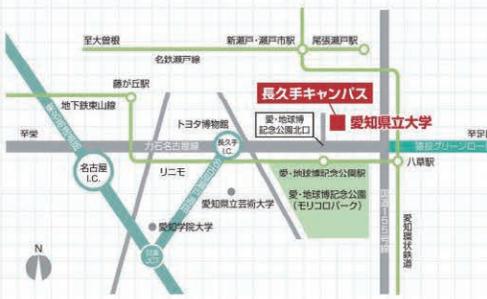
**募集期間 10月26日(金)まで**

お申込およびお問い合わせ先  
〒480-1198(住所記載不要) 愛知県長久手市茶ヶ淵間1522番地3  
愛知県立大学 学術情報部 研究支援・地域連携課  
電話番号: 0561-76-8843(直通) Eメール: renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

**交通アクセス**

- 地下鉄「藤が丘」駅から八草行きリニモ(東部丘陵線)約13分
- 「愛・地球博記念公園」駅下車 北へ徒歩5分
- 愛知環状鉄道「八草」駅から藤が丘行きリニモ(東部丘陵線)約3分
- 「愛・地球博記念公園」駅下車 北へ徒歩5分

※駐車スペースに限りがありますので、公共交通機関でご来場下さい。



【県大アゲインチラシ】



【講座概要】

愛知県立大学では、「県大アゲイン」と題して、かつて本学で教鞭を取られた先生方をお迎えする公開講座を開催しております。

今年度は、「**“日本”を学び直す—人文・社会科学の醍醐味—**」というテーマで、国語国文学科と日本文化学科（現在の歴史文化学科）のOBの方々に登場して頂きます。

地理、歴史、文学、言語という各分野から、結び目としての“日本”を多角的・複眼的にとらえる内容です。

外から、過去から、内側から、そして現在また将来へ、思考の幅が広がることでしょう。

講師陣の知的財産を堪能してください。

	日時	講師	テーマ
1	平成 24 年 7 月 8 日 (日)	梅村 喬先生 文学部 日本文化学科 昭和 51 年 4 月～平成 11 年 3 月在職	日本の古代史が残したもの — 国、職、免 —
2	平成 24 年 7 月 15 日 (日)	米家 泰作先生 文学部 日本文化学科 平成 11 年 4 月～平成 15 年 9 月在職	百済の古都を訪問した日本人 — 史蹟のコロニアル・ツーリズム —
3	平成 24 年 7 月 22 日 (日)	田島 優先生 文学部 国文学科 昭和 63 年 4 月～平成 14 年 3 月在職	感謝表現の日本語史
4	平成 24 年 7 月 29 日 (日)	山田 正浩先生 文学部 日本文化学科 昭和 46 年 4 月～平成 20 年 3 月在職	朝鮮時代の地図に描かれた日本
5	平成 24 年 8 月 5 日 (日)	加藤 洋介先生 文学部 国文学科 平成 4 年 4 月～平成 18 年 3 月在職	千年紀に発見・紹介された 源氏物語古写本

**会場** 愛知県立大学サテライトキャンパス（愛知県産業労働センター ウィンクあいち 15階）  
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区 名駅 4 丁目 4-38

**募集人数** 一般参加者 50名（応募者多数の場合は先着順）

**申込方法** 平成24年6月29日（金）までに、下記まで往復はがき又はEメールに、住所、氏名、電話番号をご記入のうえお申込みください。

**受講料** 1,000円（5回分） ※初回受講時にお支払い下さい。

**申込先** 〒480-1198  
愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3  
愛知県立大学 学術情報部 研究支援・地域連携課  
電話：0561-76-8843 Eメール：renkei@bu.aichi-pu.ac.jp



メールはこちらから



※ご来場の際は、公共交通機関をご利用下さい。

# ○地域連携センター ホームページ

ホームページアドレス <http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>

地域連携センターの概要や活動報告、これから開催する講演会、講座等のお知らせを掲載しています。

また、研究・地域連携の概要、各学部の特徴や研究者の紹介などを収めた地域連携センター発行の冊子「愛知県立大学の特色と研究概要」も閲覧することができます。

## 【地域連携センター HP トップ】

愛知県立大学地域連携センター  
Aichi Prefectural University Community Liaison Center

▶愛知県立大学ホームページ ▶HOME ▶サイトマップ ▶お問い合わせ

### 大学の地域連携活動の総合窓口

愛知県立大学地域連携センターは、行政、産業界、研究機関、他大学、小・中・高等学校、NPOなどの各種団体、地域住民との連携活動を円滑かつ、組織的に推進する総合的な窓口です。地域の多様なニーズに対応するため、教育研究の成果を社会に還元するとともに、ボランティアや各種連携行事などに学生が積極的に参加できるようにコーディネートや支援を行います。さまざまな地域連携活動を通して、愛知県立大学が「地域共同の財産」となるように努めます。

#### お知らせ

■同窓生対象講座「県大アゲイン」を開催いたします。

講座概要：愛知県立大学外国語学部でかつて教壇に立たれた先生方をお迎えし、今一番関心をお持ちのテーマについてお話ししていただきます。

日時 2月12日(土)、2月19日(土)、2月27日(日)  
14:00～16:00

講師 野村達朗先生、長谷川太郎先生

※草履人数は 各回4名(先着順)です

### 地域連携センター概要

地域連携-社会貢献活動

地域連携活動を推進する愛知県立大学の総合的な窓口として活発な業務を行っています。

地域連携センター組織図

### 講演会、講座の結果報告

講座名	日時	講師	場所
『世界に発信：水と食（みどり）の未来社会構築戦略』	平成22年12月28日(水) 10:00～16:00	長谷川太郎先生	5201 特設講義室

### 看護実践センター HPへのリンク

平成22年度 愛知県立大学看護実践センター  
高齢者高度実践看護フォローアップセミナー開催のお知らせ

テーマ：認知症をもつ人々の尊厳を重視した支援  
～バーンソン・センター・ケアの理念から日常のケア実践を学ぶ～

講師： 遠藤崇俊 先生  
国立長寿医療研究センター病院高齢者総合診療科 内科総合診療部長

日時：平成22年12月19日(月) 15時～17時

場所：愛知県立大学サウスキャンパス「愛知県産産労働センター(ウインクあいち)15F」

対象：病院・高齢者施設の看護長、看護所長・准主、准看護長

受講料：2,000円

申込締切：平成22年11月25日(水)

平成25年3月発行

編集・発行 愛知県立大学地域連携センター

愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3

電話:0561-64-1111

<http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>